

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 第三者評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	2871500514		
法人名	社会福祉法人淡鳳会		
事業所名	グループホーム フローラ		
所在地	兵庫県洲本市鮎屋字久シ原636番地 (電話)0799-25-3800		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年3月5日	評価確定日	平成20年5月9日

【情報提供票より】 (19年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤6人, 非常勤12人,	常勤換算14

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての	2・3階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,200(日額)	円	その他の経費(月額)	600	円	
敷金	有(円)		無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		有 / 無		
食材料費	朝食	200	円	昼食	350	円
	夕食		円	おやつ	100	円
	または1日当たり			円		

### (4) 利用者の概要 (3月5日現在)

利用者人数	16名	男性	4名	女性	12名	
要介護1	10	要介護2	4			
要介護3	2	要介護4				
要介護5		要支援2				
年齢	平均	80.9歳	最低	67歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団翠鳳会 翠鳳第一病院
---------	------------------

### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に恵まれた施設は、季節の移り変わりが見渡せる広い共有スペースの周囲に自室があり、共有スペースのキッチンから利用者の動きが見渡せる作りとなっており入居者にとって安心な空間となっている。また、五感刺激への配慮として季節の飾りつけ、観葉植物を置き心身の活力を引き出すよう生活の場を整えている。利用者と職員が日常生活を共にする中で、個々の尊厳を大切にしよう関係を築くように心がけている。ご利用者一人ひとりの背景を理解し利用者得意なこと・不得意なことにあわせて行動を支えあっている。馴染みのかかりつけ医への継続通院、協力医療機関への通院は選択できるようになっており、受診内容については、薬の変更の有無、受診後の身体状況などを受診記録として残し共有できるようにしている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価を受けて、薬の棚に鍵を取り付けたり、会議録を作成したりと改善に向けできるところから確実に改善している。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4)
	スタッフに声かけしながら今回は管理者が評価をした。評価の意義と活用については、前回の評価の改善を実施するにあたり説明し理解できている。管理者の評価に取り組み姿勢も前向きで優先順位を決めて改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4,5,6)
	2ヶ月に1回定期的実施している。参加者は利用者代表、家族代表、地域住民代表、洲本市職員、地域包括支援センター、法人事務長等が出席し、GHの取組みの報告、入・退居の状況、ボランティア受け入れの状況、意見や要望、助言などが話し合われている。運営推進会議で出された内容は家族やスタッフに見てもらおうよう掲示板に掲示している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	個人向けのお便りを送付して定期的な報告としている。来所されないご家族には電話でその都度報告するようにしている。また、面会時など話しやすい雰囲気作りを心がけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	バザーへの参加、地域の方の協力を得て草刈、畑の整備をお願いし、収穫を楽しむにしている。洲本市家族会の方々が作られた食事の提供がある等地域との交流は盛んに行われている。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との連携の重要性について法人が謳っている基本理念を踏まえて現場のスタッフと本年度作成する準備をしている。		平成18年法改正により地域との関係性が重視され、家庭的な環境の下に、地域との交流を重視した、実現可能なより具体的な理念の作成の検討が望ましい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに法人理念を掲示している。本年度スタッフと共に現場に即した理念を作ることを計画しており共に作ることで共有し実践が理念に基づいたものになるよう取り組む姿勢がある。		実現可能な理念の共有の下に、日々の業務の中で理念に立ち戻り、理念に基づいた業務が実践されることを期待する。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	バザーへの参加、地域の方の協力を得て草刈、畑の整備をお願いし、収穫を楽しみにしている。洲本市家族会の方々が作られた食事の提供がある等地域との交流は盛んに行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフに声かけしながら今回は管理者が評価をした。評価の意義と活用については、前回の評価の改善を実施するにあたり説明し理解できている。管理者の評価に取り組む姿勢も前向きで優先順位を決めて改善に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回定期的を実施している。利用者代表、家族代表、地域住民代表、洲本市職員、地域包括支援センター、法人事務長等が出席し、GHの取り組みの報告、入・退居の状況、ボランティア受け入れの状況、意見や要望、助言などが話し合われている。運営推進会議で出された内容は家族やスタッフに見てもらおうよう掲示板に掲示している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の案内を定期的を送付し参加を求めている。</p>		<p>現場や利用者に関わる問題解決について、市町村の支援を求め、施設の実情を共有することが望まれる。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>個人向けのお便りを送付して定期的な報告としている。来所されないご家族には電話でその都度報告するようにしている。また、面会時など話しやすい雰囲気作りを心がけている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等がスタッフに、意見・不満・苦情が言える雰囲気作りを大切にしている。来所された方の対応は担当が行い、苦情の場合は特に誠意を持って聴き、スタッフ間で共有し対処している。家族からの意見や苦情は記録し個人ファイルに保管している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>特に職員の離職について取り組みはされていないが、管理者は職員と業務上の問題、個々の職員の状況等について日常的に情報交換を行い、円滑な人間関係が出来ている。また、講習・研修会への参加への配慮も行き届いている。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフが希望する資格取得のための研修会への参加について参加しやすいようなシフトにしている。働きながらの職員育成については、各会議の中でマニュアルを作成するなど育成を行っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流については本年度開催予定としている。</p>		<p>事業所間の交流は、職員のストレスの緩和やサービスの質の向上につながることから、同業者相互の交流の機会を持たれることを期待する。</p>
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>自宅へ面接に行きその方の生活背景を理解するようにしている。ご本人や家族の不安を最小限にするため毎日通所していただいたり、来訪時に一緒に食事を摂っていただく等納得できるまで働きかけをして入所していただいている。また、現在、ショートステイの受け入れも検討中である。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜悲哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が日常生活を共にする中で、個々の尊厳を大切にしよう関係を築くように心がけている。ご利用者一人ひとりの背景を理解し利用者が得意なこと・不得意なことにあわせて行動を支えあっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報・ヒヤリングシートなどを用いて一人ひとりの思いや希望・意向の把握を行いその人らしい暮らし方の支援を心がけている。把握が困難な方については、逐語録を作成し計画に反映させるように努めている。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本情報・ヒヤリングシート等からアセスメントして、利用者の視点に立った介護計画を計画担当者を中心に立案している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回ユニット毎の会議を実施し見直しを行っている。ユニット内での話し合いの後全体会議で共有するようにしている。ご本人やご家族から新たな要望が出た時状況が変化した時はその都度計画を見直している。		職員は認知症高齢者の特性を理解し、心身の状況・本人、家族からの意向を把握し月1回程度の予防的な対応が望ましい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々 <sup>の</sup> 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援や買物、通いなれた美容院等、要望に応じて必要な時に必要なサービスを、馴染みのあるスタッフが臨機応変に提供している。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医への継続通院、協力医療機関への通院は選択できるようになっている。受診内容については、薬の変更の有無・受診前の身体状況・受診後の身体状況などを受診記録として残し、共有できるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早期から重度化した場合の意向を伺うようにしている。状況に合わせてご家族をはじめ関係機関と連携を取りながら話し合いを重ね対応している。		重度化や看取りについてのマニュアルを作成し、方針や対応についての職員の理解を深め、共通認識を持つために、ミーティングや研修会を計画的に開催することが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1.その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>職員全体の接遇は、温かく穏やかで、一人ひとりの誇りを傷つけないような言葉かけや対応を心がけている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>スタッフのペースでの生活ではなく、利用者に合わせた過ごし方を優先している。一人ひとりの過ごし方を尊重することを大切にしたり、関わり方を心がけている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立は食事係りを作り意見を聴きながら行っている。利用者の力量に応じ共に食事を作り、食後の後片付けを行っている。食事介助が必要な方もあり、食事介助につく場合は排泄ケアをしない等とり決め、細やかな配慮がなされている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者のプライバシーに配慮した個浴で、希望により同性介助を行い、浴用洗剤なども個人の好みに合わせ用意している。入浴回数については、入浴行為が自立されている方は毎日、介助を必要とされる場合、利用者の状態・季節に合わせて入浴回数を決めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の背景を大切にしながらその方の力を発揮できる場面作りを心がけている。折り紙、畑仕事、レクリエーションなどの楽しみごとを通して張り合いのある生活ができるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	山間部の自然に恵まれた環境にあり、可能なかぎり散歩を日課として、ご家族の協力も得ながら広いGH周辺を散歩し、外気にふれる機会を多く持ち、五感刺激への配慮をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしの大切さを十分認識した上でまた安全面を考慮した上で、危険な場所以外は鍵をかけない努力をしている。		
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導を受けながら、夜間の想定をした訓練も含め、非難訓練を実施している。災害に備えお米2～3日分、水(タンク)など備蓄している。		



第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居時に好みの物などを把握し、バランスのとれた食事ができるよう支援している。水分摂取については、食事以外におやつやお茶の時間を作り摂取できるようにしている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自然の移り変わりが見渡せる広い共有スペースの周囲に自室があり、共有スペースのキッチンから利用者の動きが見渡せる作りとなっており入居者にとって安心な空間となっている。また、共有空間の周囲にソファを置きくつろげるようにしている。五感刺激への配慮として季節の飾りつけをし、観葉植物を置き心身の活力を引き出すよう生活の場を整えている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人が持ち込まれた使い慣れたものを使いやすいように配置されている。安心して生活できる各居室は、個性が感じられ、その人が安心してゆったりと暮らせる空間作りができている。</p>		

は、重点項目。